

## 生実学校（児童自立支援施設）の建替えに係る整備方針について

令和 4 年 1 0 月 2 7 日  
児 童 家 庭 課

## 1 生実学校の概要

生実学校は、明治 4 2 年 3 月に「感化院」として現在地に創立され、各種法改正等を経て、現在の児童自立支援施設「生実学校」が設置されている。

児童自立支援施設とは、非行などの問題行動がある子どもや生活指導を要する子どもなどを対象とし、家庭的・福祉的なアプローチによって、個々の子どもの育ち直しや立ち直り、社会的自立に向けた支援を行う施設。

敷地内に千葉市立星久喜小学校、中学校の分校が併設されている。

## ※ 参考 生実学校位置図

千葉市中央区生実町 1001 番地（県有地）

（JR 内房線・外房線蘇我駅から南東へ約 2km）



## 2 生実学校の現状と課題

(1) 建物の老朽化：児童が生活する寮舎（全 5 寮）の築年数が 5 0 年を経過

建物名称	構造名	延床面積	階数	建築年月日	IS 値
うづき寮	RC造	257.8 m <sup>2</sup>	平家	1970 年 9 月 5 日	1.11
むつき寮	RC造	257.8 m <sup>2</sup>	平家	1970 年 9 月 5 日	1.11
きさらぎ寮	RC造	257.8 m <sup>2</sup>	平家	1970 年 9 月 5 日	1.11
やよい寮	RC造	257.8 m <sup>2</sup>	平家	1970 年 9 月 5 日	1.11
さつき寮	RC造	257.8 m <sup>2</sup>	平家	1971 年 12 月 18 日	1.11

【課題】 児童寮の老朽化により、入所児童に安心安全な生活環境の提供が難しい。

- (2) 寮舎の規模：新しい社会的養育ビジョンにおいて小規模化が必要とされる  
【課題】 現状、1か寮当たりの入所定員数は14名であり、小規模化に対応できていない。
- (3) 入所児童の変化：精神疾患、発達障害のある児童、中卒児童の増加
- ・ 精神疾患、発達障害のある児童（疑いを含む）：入所児童全体の約8割  
【課題】 ケアニーズが高い児童の増加が顕著であることから、個別的ケアの重要性が高まっている。
  - ・ 中卒児童：入所児童全体の約3割  
【課題】 家庭復帰が困難な中卒児童等への自立支援の重要性が高まっているが、自立支援のための体制が充分でなく、学齢児と中卒児が同一の寮舎で生活することで様々な支障が生じている。

### 3 課題に対する県の対応

- ・ 生実学校の寮舎については、千葉県県有建物長寿命化計画において、令和4年度までに建替えの着手を目指すこととなっている。
- ・ 児童自立支援施設については、国において、施設の運営や新たな設置（改築）についての方向性を示すこととされているが、方向性を示す時期の目途は立っていない。
- ・ 県としては、建物の老朽化が進んでいることなどから、国の在り方決定に先立って建替え工事等を実施するため、生実学校の建替えに係る整備方針について、令和4年3月18日に、下記の諮問内容を千葉県社会福祉審議会（社会的養護検討部会）に諮問した。

<諮問内容>

- (1) 適正な入所定員数
- (2) 1か寮当たりの入所定員数及び寮舎の形態
- (3) 今後備えるべき機能

### 4 社会的養護検討部会の答申内容

社会的養護検討部会における議論を経て、令和4年6月21日に整備方針について知事に答申された。

<答申内容>

- (1) 適正な入所定員数  
入所定員数を50名～60名程度とすることが適当である。
- (2) 1か寮当たりの入所定員数及び寮舎の形態  
1か寮当たりの定員数は6～8名程度とすること。  
全ての寮舎は独立させ、かつ平屋で整備することが望ましい。
- (3) 今後備えるべき機能  
自立支援寮を新たに整備する必要がある。  
児童の自立に向けた諸課題に対応できる機能強化（仮称「多目的寮」の整備等）について検討していく必要がある。

### 5 今後の予定

令和4年度～令和5年度 基本設計

令和5年度～令和6年度 実施設計

工事等については、児童が生活しながら工事を行うため、基本設計の中で工程を精査する。